

マダガスカル淡水産および陸産貝類相 (II)

東 良 雄*

Freshwater snails and Land snails of Madagascar (II)

Yoshio AZUMA

はじめに

著者は1996年にも8月5日～19日にかけてマダガスカル島をおとずれる機会を得た。今回、島の北端ディエゴスアレス (図1) へも行くことができ石灰岩地、モンターニュ・フランセ (図2) で調査を行った。以下に、各地で見られた Pomatiasidae 科の陸産貝類について報告する。

マダガスカルの陸産貝類

マダガスカル島は古い大陸であり固有生物の多い地域である。陸産貝類においても多くの固有種が分布している。図3にはマダガスカルで採集した陸産貝類の一部を示しているが Pomatiasidae 科 (A～F) と Acauidae 科 (G～P) には各々多くの種が記録されておりマダガスカルを代表する陸貝である。

Pomatiasidae 科の貝殻は円錐形～小塔型のヤマタニシ型で蓋がある。殻表には螺条脈が顕著にあらわれたり、色帯の変異のあるものなどがある。蓋は石灰質でやや厚く、蓋の内側はキチン質である。雌雄異体で雄には右触角後方にペニスがある。地上性で石灰岩地に多い。また乾燥林にも分布。殻径は10～60mm内外。マダガスカルには100種内外分布しており、そのほとんどが固有種である。現在、自然林の消失により絶滅種が増えている。マダガスカルには2属、すなわち *Cyclotopsis* と *Tropidophora* がある、特に *Tropidophora* には多くの種が含まれている。

① *Tropidophora (Ligatella) fulvescens* (G.B. Sowerby) 図4

殻高20.0～22.6mm, 殻径25～27.4mm, $5\frac{1}{2}$ 層

蓋は9.4～10.9×8.4～10mm

殻は球状円錐形、少し厚く、殻色は紫褐色のほぼ単色である。殻表にはにぶい光沢がある。胎殻は $2\frac{1}{2}$ 層内外で、滑らかで淡褐色である。縫合線に沿って紫褐色の帯が少しあらわれる。続く若幼層には、ほぼ等間隔の螺条脈(6本)があらわれてくる。この螺条脈は体層末端付近では幅1mm弱の間隔となり30本内外におよぶ。色帯は

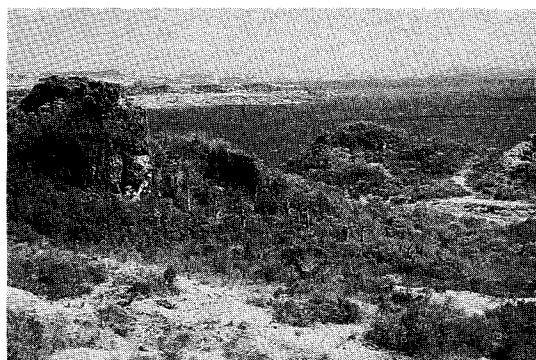


図1 ディエゴスアレス湾 ('96. 8. 9)



図2 モンターニュ・フランセ ('96. 8. 9)

あらわれない。殻口は円く、その唇縁は少し肥厚し広がる。特に軸唇、底唇部では反転し肥厚する。殻口内も紫褐色。臍孔は狭く深く径3mm内外。蓋は石灰質で厚く渦巻は4回内外で灰白色、内面はキチン質である。

軟体は黒紫褐色、触角の基部に目がある。

モンターニュ・フランセで'96年8月9日に採集

分布：マダガスカル北部

生態：石灰岩地、乾燥林に生息

② *T. (L.) diegoensis* Fischer-Piette 図5

殻高11.8～14.0mm, 殻径14.4～16.4mm, $5\sim 5\frac{1}{6}$ 層

蓋は5.5～5.6×4.9～5.0mm

殻は小型で球状円錐形。淡褐色で縫合上に細い褐色の

* 県立川西緑台高等学校

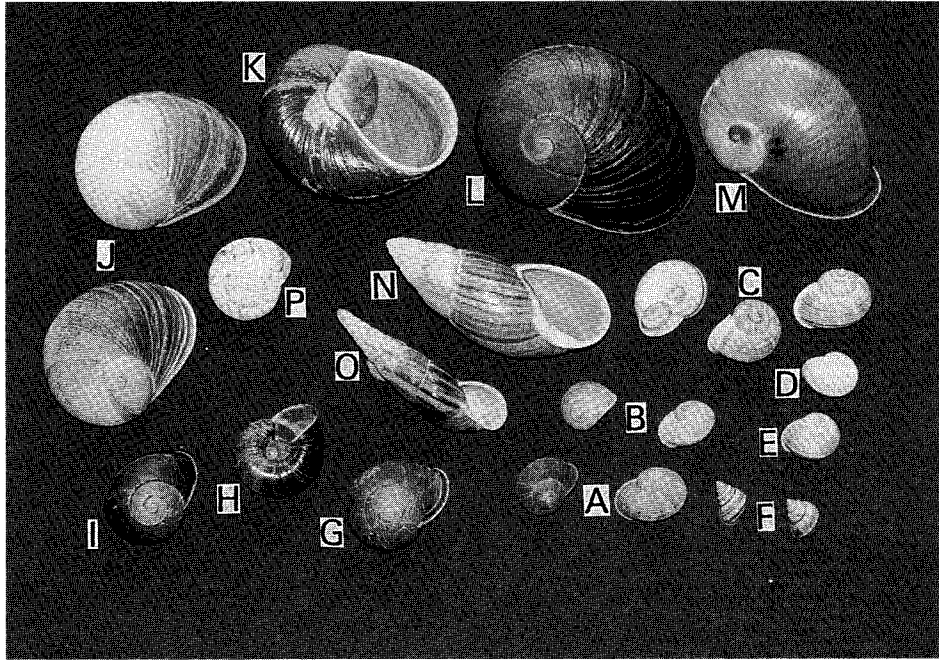


図3 マダガスカル島の陸産貝類
Pomatiasidae 科 (A-F), Acavidae 科 (G-P)

色帯があらわれる。殻表には細い螺条脈がやや密にあらわれるが、その脈間にも細い別の脈があらわれる。胎殻の2層内外は滑らか、続く若幼層より螺条脈(4本)があらわれる。体層の殻口付近では太い螺条脈は21本内外となり、脈間には細い螺条脈があらわれる。体層周縁は円い。殻口の少し手前では殻色はやや濃色となるが殻口では消失している。殻口唇はよく広がり乳白色で、その内面は滑層となる。特に軸唇、底唇部では肥厚し反転する。殻口の入口付近は乳白色でその裏は褐色である。臍孔は狭く深い。蓋は石灰質で渦巻は3回内外。

モンターニュ・フランセで'96年8月9日に採集
模式産地はケープディエゴ

③ *T. (L.) consocia* (Férussac ms. Pfeiffer) 図6
殻高18.4~20mm, 殻径14.3~14.8mm, $5\frac{2}{3}$ ~ $6\frac{1}{8}$ 層
蓋は8×6.6mm

殻は小型でやや長い尖塔型。殻表には非常に弱い螺条脈がみられる。殻色は淡黄褐色。各螺層には4本の顕著な濃褐色の色帯がみられる。胎殻2層内外で滑らか、続く若幼層には細い色帯が3本と縫合上に太い色帯があらわれる。殻口は円くその唇縁は単純で少し広がる。臍孔は軸唇の反転でおおわれ狭く開いている。蓋は白色で石灰質、渦巻は3回内外。

軟体は淡褐色で一对の触角の先端 $\frac{1}{3}$ 位は濃色である。

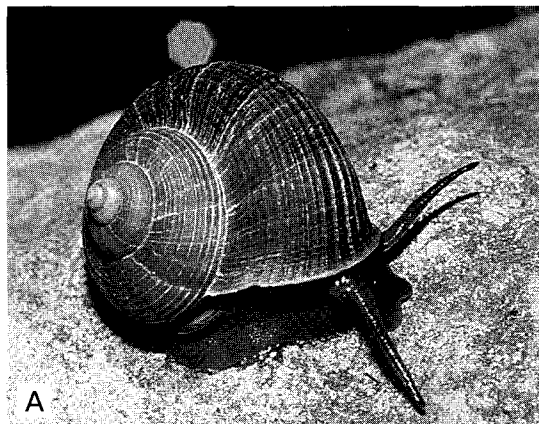
足部はこの属に共通の特徴として左右2片に分かれており移動時には左片側と右片側を交互に移動させて移動する。日本産の陸産貝類のぜん動による移動とは全く異なる移動方法である。

雄のペニスの先端は剣状で約12mm。歯舌は紐舌型。長さは約7mmで300列内外。歯式は2-1-1-1-2である。

モンターニュ・フランセで'96年8月9日に採集
分布: マダガスカル北部

④ *T. (L.) cincinna* (G.B. Sowerby) 図7
殻高10.9~12.2mm, 殻径8.8~9.8mm, $5\frac{2}{8}$ ~ $5\frac{1}{3}$ 層
蓋は4.7×4.0mm

殻は小型でやや細長い尖塔型。殻色は淡橙色で各螺層には明瞭な細い螺条脈が見られる。また、褐色の色帯がこの螺条脈に沿ってあらわれる。縫合上にはやや太い褐色色帯があらわれる。胎殻は2層内外で滑らか淡橙色である。続く若幼層には6本の細い螺条脈があらわれ、かつ色帯もあらわれる。体層では太い色帯より上部では螺条脈が10本内外あらわれる。この太い色帯より下部では螺条脈はやや不明瞭となり、臍孔域で再び明瞭な螺条脈が10本内外あらわれる。殻口の直前で螺条脈と色帯は不明瞭となる。唇縁は単純で軸唇側以外はあまり広がらない。



臍孔はやや狭く深い。

軟体は濃褐色。

フォル・ドーフアンで'94年7月31日に採集

分布：マダガスカル南東部

生態：東部の森林，低地などに生息

参考文献

Fischer-Piette, E., Ch. Blanc, F. Blanc & F. Salvat. 1993 : Faune de Madagascar. (80), pp. 281. CNRS, Paris.

Zilch, A. 1959-60 : Gastropoda 2. Euthyneura. Handbuch der Paläozoologie. 1-834

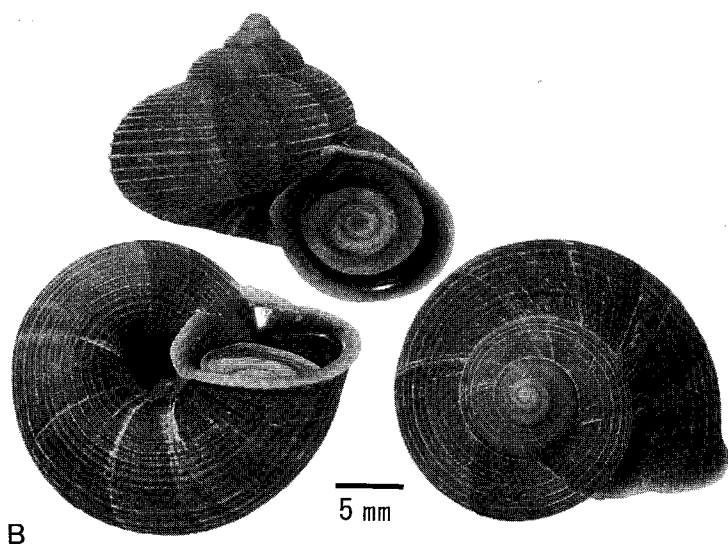


図4 *Tropidophora (Ligatella) fulvescens* (♀)

A) 軟体, B) 貝殻 (21.4×25.7mm, 5 $\frac{1}{2}$ 層)

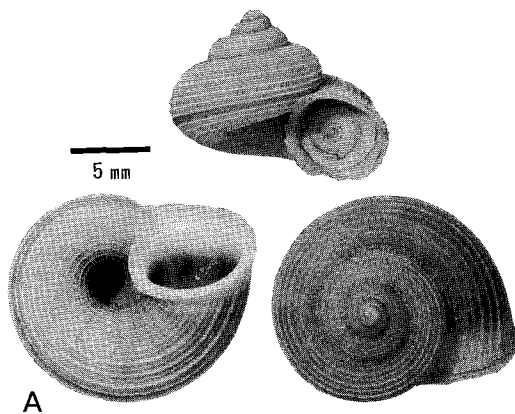


図5 *Tropidophora (Ligatella) diegoensis*

A) 貝殻 (14.0×15.6mm, 5 $\frac{1}{6}$ 層)

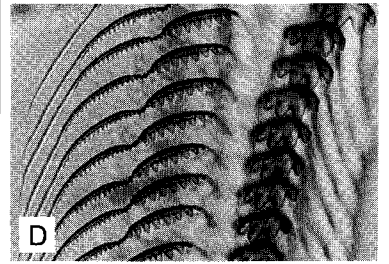
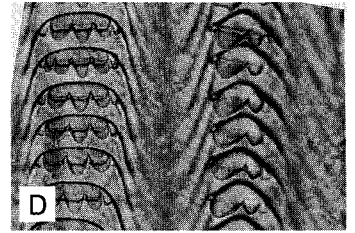
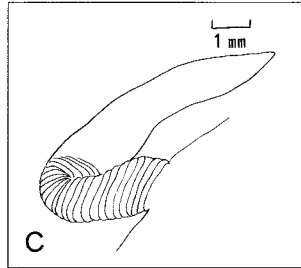
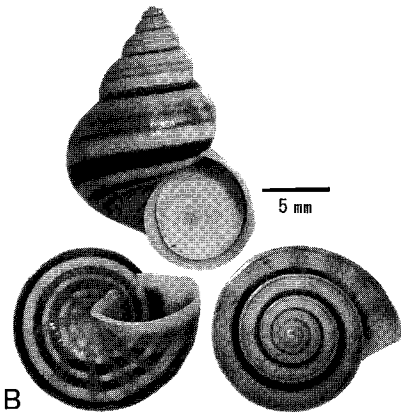
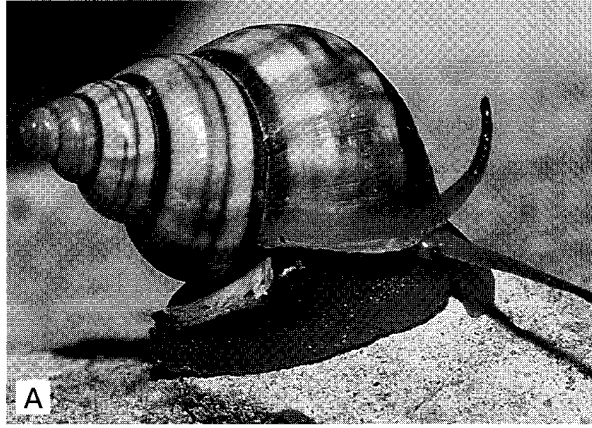


図6 *Tropidophora (Ligatella) consocia*

A) 軟体, B) 貝殻 (20×14.3mm, 6 $\frac{1}{8}$ 層), C) ペニスの形態,
D) 歯舌の形態 (C: 中歯, L: 側歯, I.M.T.: 内縁歯, O.M.T.: 外縁歯)

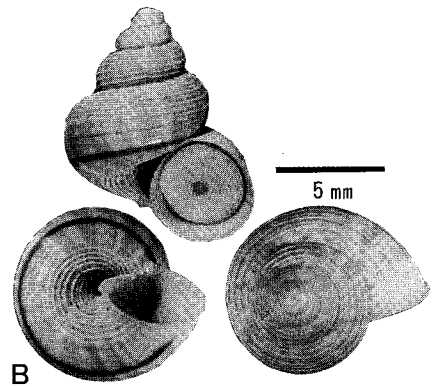
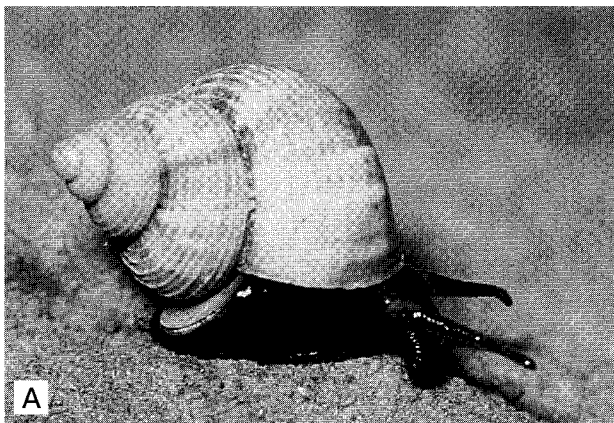


図7 *Tropidophora (Ligatella) cincinna*

A) 軟体, B) 貝殻 (10.9×8.9mm, 5 $\frac{1}{4}$ 層)